ギャンブルオンブズマン

（ギャンブル依存症を生む公認ギャンブルをなくす会）

大阪市中央区北浜1-2-2　北浜プロボノビル

事務局　井上善雄（inoue@peacelaw.jp）

TEL：06-6202-5050／FAX：06-6202-5052

会ブログ：<http://gambl.seesaa.net/>（ﾊﾞｯｸﾅﾝﾊﾞｰ他掲載）

**なくそう！**

**ギャンブル被害**

会報第59号　2017/10/13

/

１／２５　/

ギャンブル依存症を生む

　　　　公認ギャンブルをなくす会

大阪市中央区北浜1-2-2　北浜プロボノビル

事務局　井上善雄（inoue@peacelaw.jp）

TEL：06-6202-5050／FAX：06-6202-5052

会ブログ：<http://gambl.seesaa.net/>（ﾊﾞｯｸﾅﾝﾊﾞｰ他掲載）

【目次】ノルウェーのギャンブル規制／アカン…AKAN／大阪カジノ万博物語（5）／和歌山けいりん見聞記／パチンコ研究(11)パチンコの近況～ホールの寡占化と新機種導入合戦と出玉規制～／換金問題‐三店方式‐早わかり／コラム：依存症と対策･責任の考え方、脳科学で克服する依存症、暴力団とギャンブル、大江戸博奕・富くじ番付／公営競技(4K)問題言葉カルタ／NEWSピックup／ギャンブル依存問題川柳⑥／事務局だより

**ノルウェーのギャンブル規制**

（本文は、9月14日開催されたノルウェーのゲーム規制局上級顧問の講演を元にまとめました。）

　ノルウェーは人口（2017）530万人で、可処分所得（2015）は一人3万7574米ドル（日本人は3万377米ドル）である。ノルウェーで行われているギャンブルのほとんどは、宝くじに類似の政府公営ゲームである（ＧＧＲの88％）。その他の私営の限られたゲーム（12％）も含めて、ノルウェーゲーミング規制庁（ＮＧＡ）が独立した立場で規制を行っている。その規制とは次のようなものがある。

（１）プレーヤーの事前登録制

　　　氏名とゲームに許容された範囲内の事前登録が必要で、登録しないとゲームできない。

（２）負けの限度額設定

　　　負けるリスクの高いオンラインカジノやビンゴでは、1日480米ドル（約5万円）、1ヶ月1200米ドル（約14万円）までと、客の負けの限度額が定められている。また、ホール外の機械端末でも1日80米ドル（約9000円）、1ヶ月320米ドル（約4万円）、ホール内でも1日110米ドル（約1.2万円）、1ヶ月520米ドル（約6万円）と定められている。

　　　様々なゲームを合わせても1ヶ月2380米ドル（約30万円）の最大負け額と制限されている。

（３）時間制限

　　　客は限度設定以上にゲームをできず、1時間ごとに休憩が求められる。

（４）自己設定による制限

　　　客は時間と金額の上限を自己設定し、上限に達すると当然にゲームはストップされる。また、自己設定を破った場合、永久又は長期にプレーをすることができなくなる。

（５）モニターシステム

　　　客は自己のプレイをモニターでき（モニターシステム）、運営者はリスクあるギャンブラー（客）にコンタクトしアドバイスできる。

（６）ＶＩＰ客プログラムやウェルカムボーナスはない。

　ノルウェーでは、人のギャンブル行動そのものを敵視はしていない。むしろ、違法な闇ギャンブルを防止するために、国営や国が管理する適正な範囲のギャンブルを限定して認め、独立した規制当局により規制させるシステムを取っている。

　このように本年７月、日本の閣僚会議でまとめられた規制方針と比べると著しく厳しい。

医療福祉の徹底しているノルウェーでは、依存症治療もほとんどは国・政府が負担する。問題ギャンブルは、①予防、②知識（教育）、③援助サービスのアクションプランによって対処されている。その費用は国（文化省）の基金が割り当てられており、国営専売事業の収益金の内から毎年180万米ドル（約2億円）が基金に支出されている。これは、1人あたりにすると37万円となる。

仮にこれを日本に置き換えると、日本の人口はノルウェーの22倍なので、日本のギャンブル収益の中から、問題ギャンブル対策として医療費を除き、予防システム、教育、相談・援助事業に44億円を負担させるという数字になる。しかし、日本ではかかる依存症対策予算は全くないのが現状である。

ノルウェーと日本とでは天と地の格差がある。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

アカン…ＡＫＡＮ

　ノルウェーでは職場でのアルコ―ル、薬物、ギャンブル、ゲームの依存症関連のアドバイスセンターとしてＡＫＡＮがある。ノルウェー労働組合連合（ＬＯ）とノルウェーの企業連合（ＮＨＯ）と政府がその主体である。

　ＡＫＡＮは、これら依存問題の予防を目標とし、予防のモデルを開発して、依存予兆のある従業員に対し回復行動を促す。問題の初期に介入できるよう上司には知識やスキルを身に着けてもらうようにし、従業員が早く援助を受けられることを保障する。

　2016年5月よりオンライン対策として、ギャンブル等プレイヤーは、自分とゲームとの関係をテスト（査定）したり、自己がしたゲーム行動を追跡することができ、また今後のゲームについての情報まで無料で提供を受けることができるようになった。

　ノルウェーには政府専売オンラインカジノやオンラインビンゴがあるも、ＩＲカジノも民間賭場もない。ノルウェーのギャンブルの中心は宝くじである。世界で最大級の対策をとるノルウェーでも、問題ギャンブラーは人口の0.9％（34000人）、中程度のリスクプレーヤーは2.3％（88000人）であり、日本より格段に少ない。とはいえ、ギャンブルは2～3％のいわゆるギャンブル障害が発生している。射幸心を正当化し肯定する事業では病を生むことを避けがたいのだろう。

アカンとは大阪弁では一定の行動や物事を制止する言葉である。

**「ギャンブルはアカン」と言って　注意すも　リスクはありて　イカン千万**

**（善）**

大阪カジノ万博物語（５）

―　あくどい金儲け　―

１．大阪夢洲ＩＲカジノは、汚い金儲けを目指したものだ。すなわち、カジノ業者は統合型リゾートのお面をかぶせるも、それは人寄せの手法であって、会議場、イベント施設、コンベンション、展示場（ＭＩＣＥ）やリゾートホテル、娯楽施設による採算は低い。これに高収益を得られるカジノをセットすることで総合的に巨大な収益を得られるようにするというのが目的である。そのためには夢洲でのカジノ利権を得るためなら5000億円から１兆円でも投資すると、海外カジノ業者は豪語し、大阪府知事・大阪市長詣でをしてきたのである。

　　もちろんカジノ業者にしてみれば、日本人であれ外国人であれ巨額の賭金をカジノで使ってくれるという前提である。そのカジノを独占でき、客全体で100億円を賭けてくれれば、わずか5％でも5億円の利益が得られるという想定である。1日に延べ2000人の客に延べ50万円を賭けさせれば、総賭額は10億円となり、その5％の5000万円の利益を得らえる訳である。

　　2000人が計50万円を賭けるというのは、1000人が10回10万円を賭けるのと同じ、2000人が50回1万円を賭けるというのと同じである。カジノは12時間以上客を賭け続けさせるところであるから、1時間に10回、10時間で100回も賭け続けられるところに、カジノの強さ（怖さ）がある。

２．ラスベガスやマカオなどの既存業者はもちろん、日本のギャンブル産業も参入を希望する。

　　海外カジノ営業主、ＩＲカジノ事業主だけが夢洲ＩＲに集ろうとしているわけではない。夢洲でのＩＲカジノの計画には、少なくとも1000～2000億円に及ぶ建設費がいる。道路・鉄道整備、カジノ施設を含むホテル、会議場、展示場等、さらにリゾート施設には、設計・施工を請け負うゼネコンら建設業界関連の儲け仕事が待っている。そして客を呼ぶ企画（ex.電通）、広告、メディア、旅行業、案内から客を受け入れて遊び金を落としてもらう。観光、接客（男女、モノ、サービス）が必要となる。

　　カジノは、単純な賭け麻雀店ではない。様々なギャンブルゲームシステム、ＥＧＭ（電機ゲームマシーン、スロットなど）を統轄するシステムで人を酔わせ興じさせる。ノム・ウツ・カウのソフトシステムをもって利益を得る（収奪する）ものである。様々なサービスをする若い女性や男女のゲームディーラー、ギャンブルゲームを促進させて店と賭ける客をリードする案内人やガードマンが必要であって、これらを支えるシステムにも大金が投資される。これらのシステムにはＥＧＭ１台100万円の設置だけで、1000台で10億円が必要である。

　　また、1万人の客が1日5万円の食事・宿泊・買物の消費をすると、1日5億円となる。それらの客を運ぶ鉄道、バス、車、飛行機、船便も産業を期待している。

　　このような消費のために巨額の資金投入によって観光全体に収益が拡散すると期待させているのがＩＲカジノである。

　　しかし、仮に予想どおり収益が出なかったらどうなるか。そのときは倒産、撤退するしかない。しかし、府・市が夢洲にした巨大な設備投資はどうなるのか。その尻拭いは府・市が行うしかない。また、依存症など社会的弊害を残したものもツケとなる。ＩＲカジノが全て責任をとるわけではない。高めの税金を払ったのだからあとは知らないと言うのであろうか。

　　世界のカジノ企業でギャンブル被害者の損害を全て償った企業はいない。もし完全に償えば倒産する。それではカジノはやっていけないと言うだろう。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

和歌山けいりん見聞記

2017年6月17日、和歌山市駅近くの和歌山競輪場を視察した。9月に和歌山で開催された第24回全国市民オンブズマン大会の打合せ会議の午前中を利用した。

和歌山けいりんは、昭和25年1月より県の主催で行われ、その後同年9月からは和歌山市、海南市、田辺市、新宮市の4市による事務組合競輪も行われるようになり、平成3（0991）年には1兆9553億円を売り上げた。しかし、平成14（2002）年に4市競輪は撤退している。

当日は同競輪主催のレースはなく、大阪の岸和田競輪など他の競輪場の場外車券売り場となっていた。中高老人男性数百人の賭場と化し、レース案内とオッズ、テレビ中継、結果の配当表示などが多数のテレビ画面に次々と映し出される。客は予想した券を自動販売機で購入する。その車券が当たって配当金があれば金を受け取れる。

昭和22年に始まった競輪は、全国的に一時隆盛をみるも、平成に入ると入場者、売上ともに減じ、2000年以降は赤字で不振のお荷物公営競技となっていた。これに対しては各議会からも、収益事業として自治体に確実な収入があるのであればともかく、巨大な投入資産に見合う収益がないことを批判された。和歌山けいりんについては、県の包括外部監査でも取り上げられ、収益の悪化に対して厳しい批判が指摘されている。

そのためか競輪開催自治体とＪＫＡは、競輪場が休みの日も場外車券売場であるサテライトのように他の競輪場の場外券を販売するようになった。その他、インターネット販売をするなど直接競技をする場にいない賭け本位の車券販売を拡大させ、なんとか「黒字化」している。また、その営業は若い客向けのレディース競輪、観客を入れないミッドナイト競輪などを開催し、さらに女性客向けに託児ルームサービスもはじめた。

和歌山けいりんもレディースファミリールームをつくり、女性客・子連れ客の受入れサービスを行っていたが、2016年12月6日付で閉鎖されており、訪問時は見学できなかった。女性客を増やそうとしたのであろうが思うように客を得られなかったのであろう。

パチンコ研究(11)　　　　　　パチンコの近況

～ホールの寡占化と新機種導入合戦と出玉規制～

１．パチンコ・パチスロ（以下、総称してパチンコという）の新台導入合戦が続く。有名タレント（郷ひろみ、かつては和田アキ子やアグネスラム）やギャルキャラクターを動員したポスター広告も続いている。

　　これは、パチンコ業界の低迷、若者離れ、そしてマルハンとダイナムの２強による中小ホールの駆逐が進み、パチンコメーカーも新器拡大を展開しているからだ。これまでメーカー各社は下表にあげるような数百億円を売り上げるような機種を続々開発し、数兆円レベルの売上をしてきた。どれもドラマ仕立てで客を夢中にさせてゲームを継続させる仕様となっている。

|  |  |
| --- | --- |
| メーカー名 | 代　表　機　種 |
| 京楽 | ＡＫＢ48、仮面ライダーＶ３、必殺仕事人、冬のソナタ　等 |
| セガサミー | 北斗の拳、エウレカセブン、モンスターハンター　等 |
| 平和 | ルパン三世、サムライガールズ、戦国乙女　等 |
| SANKYO | 機動戦士ガンダム、アクエリオン、エヴァンゲリオン　等 |
| 三洋 | 海物語、ギンギラパラダイス　等 |
| その他 | 花の慶次、歌パチ、牙狼、鉄拳、ミリオンゴッド　等 |

　　これらパチンコ機は総計約460万台に及び、全世界のＥＧＭ（電子ゲーム機）7,673,134台のうち59.8％を占めた（2013年）。しかし、実はこれまでにも多く存在していたのだが2016年には違反パチンコ機が続出し、73万台もが撤去され新台に変えられている。（遊技工業組合コメントより）

　　パチンコ店のチラシ広告を見るだけでも、次々と新台開発が進んでいることがわかる。

２．ホール店大手のマルハンは300店以上、ダイナムは370店、ガイアは190店、オザムは43店を展開する。かつては全国に18000店あったホールを1万店台に淘汰したのはこのＢＩＧ４である。関西に限ってみると、延田123（関西56店）、マルハン（同33店）、コスモ（同32店）、アロー（同20店）などが多い。

　　さて、これらのチラシを見てみると新台機種がズラリと並ぶ。パチンコ機では、仮面ライダーフルスロットル、ビッグドリーム、グラップラー刃牙L4T、J-RUSA3、地獄少女弐、聖闘士星矢3、交渉人真下正義、魔法少女まどか、魔法先生、生ネギマ、攻殻機動隊など、そしてスロット機では、押忍！番長3、聖闘士星矢海皇覚醒、デビルマン、討鬼伝、地獄少女宵伽、クジラッキー、アメイジングスパイダーマン、盗忍！剛衛門、ゴルゴ13、タイムクロス2、セイクリッドセブン、ミリオンアーサー、ＡＫＢ勝利の女神、シンデレラ、ブレイド3、亜人、魁！男塾などである。

　　もちろん機種入替は大手チェーンだけに限ったことではなく、中小ホールもチラシ広告を出している。大海物語、哲也、金田一少年の事件簿、サムライスピリッツ、キャプテン翼など旧型台を新機種に変えている。数十位クラスのパチンコメーカーの機種などはレトロ台も多い。

３．このような目まぐるしい新台導入の背景には、客の減少によるホールの客争奪戦の激化がある。新機種台は客の呼び込み手段となるので、ホールとしてはなくてはならない。こうしたことから今や、パチンコ台はメーカー側の売手支配市場になったともいわれている。

　　客が減ったとはいえ、パチンコ店の売上（貸玉）は年21兆円を超える。売上の約15％以上がホールの粗利益となるといわれている。そして、メーカーや関連業種への経費（この中には三店方式の買戻し代金も含む）を差し引いた残りの営業利益や純利益はより低いオーダーとなる。

　　例えば、2014年のマルハンは売上約2兆円、営業利益約615億円と公表されている。売上に対する3％余が営業利益という計算になる。これは子会社や関係企業への利益移動もあるからであろう。（ちなみに会社四季報（2017上期）によれば、2014年のマルハンは売上約2兆1166億円、営業利益約579億円、経常利益605億円、純益323億円とされる。）

また、ダイナムは売上約8260億円、営業利益約193億円で、2.3％となる。他のホールも売上（貸玉）に対し、1～3％の営業利益というのがホールの現状のようだ。

しかし、実業の代表格たる関西電力が2兆8590億円を売り上げるも営業利益は3140億円の赤字、また大阪ガスは1兆3800億円を売り上げるも営業利益は847億円の黒字であることに比してみると、パチンコがいかにぼろい商売かがわかる。

４．しかし、パチンコ業界の未来は暗い。それは、日本のギャンブル依存の主原因ともいえるパチンコに対し、近時のカジノ問題と絡んで、その射幸性を弱める規制が始まるからだ。

　　警察（公安委）は今年8月24日、パチンコの出玉、パチスロのメダルの獲得数を現行の3分の2にするよう改正し、2018年2月1日から施行することとした。標準的な遊技時間を4時間としたり、大当たりの上限も現行の2400個から1500個にするとなれば、メーカーもホールも売上減となる可能性が高い。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

換金問題　―三店方式―　早わかり

１．風適法23条により、ぱちんこ営業者は次の行為をしてはならない。

　　①現金又は有価証券を賞品として提供すること、②客に提供した賞品を買い取ること、③遊技の用に供する遊技球等を客に営業所外に持ち出させること 、④遊技球等を客のために保管したことを表示する書面を客に発行すること

　①②に違反した営業者は6か月以下の懲役若しくは100万円以下の罰金、③④に違反した営業者は50万円以下の罰金という刑事罰が定められている（同52条1項2号、同54条1項4号）

２．にもかかわらず、これらの禁止行為は絶えていない。戦後のパチンコは遊技というも、実質換金により賭博化し、射幸心を利用して拡大が図られてきた。

①まず、ぱちんこはタバコなど換金しやす物が賞品とされ、大量に換えられたタバコはヤクザを含む買主が店横で換金したため、収益を上げた。

　　②警察は暴力団対策として規制を始めたが、ホールと客の不満で対応が必要となった。

　　③そこでホールは、一定賞品を提供し、警察が黙認する業者による買取が生まれた。警察はホールとは別の業者の仕事としてこれを黙認し、その換金用賞品はメダルなど特殊景品に限定され、換金計算もしやすくした。

④「三店方式」ないし「四店方式」という客に提供した賞品を迂回して店に還流させる仕組みが完成し、今では全国化している。

コラム　　　　　 依存症と対策、責任の考え方

１．昔から「ノム・ウツ・カウ」という快楽行動は人を習慣化させ癖ともなり、その物質や行動に依存させる「病」です。現代医学の下では薬物（ニコチン（タバコ）、麻薬、モルヒネ、ヘロイン、覚せい剤、睡眠剤、鎮痛剤、コカイン等）は薬物依存、物質依存の典型です。また、物質だけでなく行動の依存として、ギャンブル依存、性行動異常、食事異常（過食摂食）、買物依存、万引（クレプトマニア）があり、スマホ依存もこのタイプとされます。アルコール中毒は薬物依存が基本ですが、行動上の依存もあります。人間の快楽行動は条件によって癖になり、習慣からそのモノ、行動自体に依存し、病的と評される事態を生むのです。

　　今日の精神医学会（1980年～）は、これらを嗜癖（アディクション）から依存（ディペンデンス）、障害（ディスオーダー）と呼び方や概念を改良しつつも、私たちの使う癖・依存をその程度により依存症（病）、精神疾患（病気）として公認するようになりました。

２．では、この症病への対策をどう考えるかですが、およそ3つの考え方があります。

　　第1は、この病気は天性の欲望からのものですが自制すればよく、例外的に発生する疾病に対して治療・対処すればよいというものです。ここには病気を生み出す仕組みについて基本的に研究はありません。業者に予防責任はなく、逸脱した客が病気になっても自己責任で治療する他ないというものです。ギャンブル事業者の基本的考え方です。

　　第2は、病を生むものには一定対策はするも、一定容認すべき物質、サービス、行動であるからその程度で対策を取るも、その病気は一般の病気治療と同じレベルでよく、自己責任と保健福祉の範囲で対応するというものです。現状を肯定する考え方です。

　　第3は、病は予防が第一で、依存するシステム、依存を生む行動を抑えようというものです。病の依存を生み出す企業システムにこそ、厳しい責任を求めます。病気の発生と回復を求め、企業や国、自治体の責任を重く捉えるものです。

　　実は、依存症の問題は公害病への認識の発展に似ています。水俣病やイタイイタイ病、大気汚染による呼吸器疾患は因果関係さえ不明で、企業は行政規制の範囲であれば問題ないという考え方がありました。そこからより厳しい規制が必要となり、ついには公害源となる汚染者には、国・行政と共にその責任が確立しました。

　　物質依存であれ行動依存であれ、正しい知識教育を受けていない消費者市民が、企業や怠慢行政の犠牲になってよいわけはありません。パチンコのような収奪産業はもちろん、依存者から莫大な収益を得る略奪的ギャンブルを禁止し、略奪者は完全賠償するべきでしょう。

脳科学で克服する依存症

　「ナショナルジオグラフィック」2017年9月号は依存症について26頁にわたり特集を掲載している。フラン・スミス氏の文もマックス・アキレラーヘルウェア氏の写真も迫力がある。写真や図10点を是非ご覧いただきたいが、以下、文中のコピーを紹介します。（　　）内は筆者のコメント。

１．依存症は道徳心の欠如が原因ではなく、病気である。

　（病気の原因はギャンブル依存症ではギャンブルである。）

２．既存の治療薬はアルコール、たばこ、ヘロインを断つには助けになるが、再発するケースがあまりに多い。しかし、コカインのような興奮性の薬物依存には有効薬はない。

　　（ギャンブル依存症にも治療薬はないが、磁気治療が試験中。）

３．欲望を満たす機会がいくらでもある現代では、私たちを陥れる危険な「ワナ」があり、それでドーパミンが引き金になり依存症になる。

　　（パーキンソン病にドーパミン薬が使われてギャンブル依存を生むこともある。）

４．スロットマシン様装置で当たりの確率は低いが多くの砂糖が出る穴と当たりの確率は高くても砂糖の出る量の少ない穴をネズミに選ばせると、ネズミは前者を選び続けた。

　　（ネズミも人も射幸に囚われる。）

５．ネットゲームにのめり込む障害も今後研究されるべき病態

　　（渇望とはドーパミンで引き起こされ、渇望の回路が快楽のスポットを乗っ取られ依存症となるという構図は興味深い。）

６．企業は老いゲーマーの脳内にドーパミンを溢れさせる次世代型ゲームの準備を進め、このエキスポにはカジノ界などから27000人が参加した。

　　（世界で11億人がタバコを吸い、鎮痛剤過剰摂取によって米国では1日に91人が、世界では1年に330万人が死亡する。ギャンブル、ネット、ゲームなど行為依存を増やすものは増える一方である。カジノは酒、タバコ、ギャンブル、遊び、セックスなど快楽に依存させる「総合デパート」「総合商社」である。ＭＩＣＥやリゾート等の隠れ蓑となる集客システムもあり、いわば見てくれ、外見の良い大型賭博場に過ぎない。）

註：現在の脳科学は、ギャンブル依存症を発生させる脳の機序やドーパミンなどの脳内物質の働き、さらには物質依存だけでなくギャンブル、食事異常、インターネット依存など行為依存の分野の解明も進んでいます。しかし、有害物や有害嗜癖を生み拡大している社会の仕組みの視点は重要です。予防へのシステムについて、日本は政府自体が依存症の生産者で、治癒と問題解決に対して放置していたこともあって、ほとんど対策は取られていません。皮肉な表現ですが、自治体もまた、公営競技による収益事業というギャンブル依存なのです。

（Ｙ）

暴力団とギャンブル

　暴力団とは、暴力団対策法で「団体の構成員が集団的に又は常習的に暴力的不法行為を行うことを助長するおそれがある団体」（2条）とされています。俗に「ヤクザ」といわれますが、花札のオイチョカブの八・九・三（計20）のブタの手から、どうしようもない、世間の持ち余し者という由来の説があります。

　暴力団が稼ぐことを「シノギ」といいます（警察はこれを「資金獲得活動」といいます）。暴力団のシノギには伝統的に、①覚醒剤（薬物）販売、②恐喝、③賭博、④ノミ行為といわれます。①には覚醒剤の他、大麻、コカイン、ＬＳＤ、ＭＤＭＡ、ヘロインなども含まれます。②は「カツアゲ」「みかじめ料」の恐喝などです。③は野球賭博、闇カジノ、相撲賭博等です。④は公営競技を利用してヤミの券販売や配当をして稼ぐものです。結局、③④は完全にギャンブルの主催（賭博開帳、競馬法等の違反のノミ行為）で稼ぐものです。また、パチンコ店、パチスロメーカー等からのみかじめ料もギャンブル界での稼ぎといえます。

　暴力団には、6代目山口組、稲川会、住吉会など「広域団体」を含む22の指定暴力団があります。稲川会や酒梅組（大阪市）は博徒系といわれました。しかし、今や指定暴力団はその傘下に博徒系もテキヤ系も愚連隊系（青少年不良団）の全てを含んでいます。例えば、違法バカラ店は自ら主催し、店を警察の摘発を免れるための情報を入手したり、どこかの組に属して自らを守っています。

　暴力団の闇カジノはバカラが中心で、夜8時から朝5時までの一晩に賭け金が1億円を超すことが珍しくなく、その5％が寺銭となり、1店で500万円もの粗利をあげるといいます。加えて店は、足りないチップ（賭けの相手）を引き受け、結局1ヶ月で1億5000万円も儲けます。もちろん全て脱税でマネーローンダリングです。摘発に対しては新店をつくって対応しています。店のデラックス化、アングラ化が進み、闇カジノを常設の賭博場（昔でいう常盆）にしているのです。

　1989年の警察庁公表データでは、賭博・ノミ行為の収入は2200億円だったとしています。それにしても違法行為を行う暴力団が堂々と存在し、また存在させている日本の警察、国家、社会はいかがなものなのか。反省が必要でしょう。

　暴力団は組織犯罪集団ですが、世界にはイタリアやアメリカのマフィア、香港の三合会、台湾や中国の流亡民（リュウマン）、コロンビアのカルテルなどがあります。なお、イタリアのシチリアはマフィアですが、ナポリではカモッラ、カラブリア州ではヌドランゲラと呼ばれるようです。

　（以上は、溝口敦著「暴力団」を参考にしました。）

大江戸博奕・富くじ番付

　『大江戸番付づくし』石川英輔著（実業之日本社　2001.10.25）によると、相撲番付になぞらえた様々な番付、競べ、鑑が一枚物として発行されている。その中から博奕・宝くじの記載を調べてみた。

（１）色と欲にかかわる「浮世人情合」によると・・・

　　よく情のトップは「一六勝負　大よく　富の札買ふ人」である。一六勝負とはサイコロ賭博のこと、富くじは1枚で四分の一両（1500文、3貫）で、大工さんの日当の三日分だから現在の宝くじに比べて賭博度が高いものだった。そこで庶民は共同買い（割札）をしていた。ちなみに色情のトップは「地面を売って女郎を買ふ人」である。

（２）不用競（いらぬもの、いらぬこと）によると・・・

　　　差し添え人、副主催者は「やまひ」と「ばくえき（博奕）」になっている。ばくえきは病と同じで、今日でいうギャンブル依存症を生むものだから病気と同じとして判断基準になっていた。寺社奉行が特別許可する自社の普請富札と異なり、やくざ（博徒）の博奕や庶民の道端ばくちは全て違法で犯罪として処罰された。（実際には取締まりが不十分で見逃されていた。）

**公営競技（４Ｋ）問題言葉カルタ**

あ　アルコール販売　競技場で再開（Ｈ13）　　　は　パソコン・スマホで在宅投票　ばんえい競馬

い　ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ投票ｼｽﾃﾑ　導入相次ぐ（Ｈ15～）　　 ひ ﾋﾞｯｸﾞﾚｰｽ志向（皐月,ﾀﾞｰﾋﾞｰ,菊花,天皇,有馬）

う　馬番単勝・連勝　三連もウインズで　　　　　ふ　船橋オート　廃止です

え　ｴﾝﾀｰﾃｲﾝﾒﾝﾄ化とｱﾐｭｰｽﾞﾒﾝﾄ化というが　　　　 へ　平和島競艇劇場

お　オッズで決める投票券　　　　　　　　　　　ほ　ﾎﾞｰﾄﾋﾟｱ　ﾎﾟｲﾝﾄﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ付ｸﾚｼﾞｯﾄｶｰﾄﾞ

か　ガールズレースから海外進出まで　　　　　　ま　松戸競輪でオールガールズレース

き　競艇３連単と「スタート展示」　　　　　　　み　ミニ場外発売所（Aibaとofft）も

く　ｸｲｯｸﾋﾟｯｸ方式（馬）にｸｲｰｽﾞｸﾗｲﾏｯｸｽ　　　　　む　向日町競輪場の将来は

け　競輪専門ｽﾋﾟｰﾄﾞﾁｬﾝﾈﾙ（Ｈ9）と携帯電話で　　め　メイレース　メイクデビュー（新馬競走）

こ　コンビニで　馬券、車券、舟券売ります　　　も　モーニングレースより早くサンライズレース

さ　ｻﾃﾗｲﾄ・ｱｸｾｽ・ﾀｰﾐﾅﾙ(ＳＡＴ)で自動販売 　　や　ヤフーでも夜間発売、前日発表（馬）

し　車券まで枠番連勝　射幸度高め　　　　　　　い　　ｲﾝﾀｰﾈｯﾄで大量買いと依存症増やし

す　ｽﾋﾟｰﾄﾞﾁｬﾝﾈﾙ（ＣＳ）競輪でお早く（Ｈ9）　　ゆ　夢Ｑ舎（東京競馬場）

せ　専用場外発売所（ｳｲﾝｽﾞ、ｻﾃﾗｲﾄ、ﾎﾞｰﾄﾋﾟｱ）　 え　閻魔も仏も依存症になる賭博

そ　即日入金・投票・引出のｼﾞｬﾊﾟﾝﾈｯﾄ銀行　　　 よ　４投票方式から7投票方式まで

た　ダートグレード競走（馬）（Ｈ9～）　　　　　ら　楽天競馬のランク付け

ち　ﾁｬﾘﾛﾄ（7重勝,3重勝単勝,5重勝単勝etc） り　良馬場　重馬場　不良馬場

つ　次々消える赤字競輪場とオートレース場　　　る　　類別多重の単・連・複

て　テレドーム（電話実況）デルカ電子マネー　 れ　レディースジョッキーレース

と　都市型場外券売場(馬車舟)はやる(H10～)　　 ろ　労多くして　予想屋泣かせ

な　ナイターレース、ミッドナイトレース拡げ　　わ　ワイド（拡大馬番連勝券）も導入（Ｈ11）

に　日本中央競馬会のＪＲＡカード（Ｈ11）　　　ゐ　往きはよいよい　帰りは荒れる

ぬ　抜くを差す、マクレというケイリン　　　　　を　小倉競輪　発祥の地

ね　ネット投票システム「」（馬）　　　 ん　んの尽きはハサン

の　農耕馬曳く　ばんえい競馬　　　　　　　　　京　京都は春の天皇、菊花賞

ギャンブルＮＥＷＳピックｕｐ　（2017.8.29～10.6）

2017.8.29　 共同　　投票券のネット購入限度額設定へ　ギャンブル依存症対策

　　　　　 日経　　米カジノ大手、日本進出に強い意欲　ウィン・リゾーツＣＥＯ

　　9.2　　 朝日　　米カジノ王、日本のＩＲ素案を批判　面積上限設定に難色

　　9.5　　 朝日　　社説：カジノ規制案　不安ぬぐうにはほど遠い

　　9.6　　 日経　　ＩＲ「横浜の発展に不可欠」横浜商議所

　　9.7　　 東京　　横浜にカジノ「ＮＯ」　市民団体など住民監査請求

　　9.8　　＜当会　会報第５８号発行＞

　　9.9　　秋田魁　　社説：ギャンブル依存症　政府の対策では不十分

　　9.11　　苫小牧　　海外事業者の売り込み活発　ＩＲ誘致に力入れる苫小牧市

　　9.13　　赤旗　　大阪　カジノ誘致へ維新暴走　府・市「構想案」で開業日程示す

　　9.14　　ＮＨＫ　　依存症防止　ノルウェーに学ぶ

　　　　　　ＮＨＫ　　横浜港山下ふ頭　港湾団体　カジノでない再開発提案へ

　　　　　　赤旗　　愛知／住民「カジノいらない」党国会議員団が愛知県調査

　　9.17　　日経　　カジノ構想　マイナンバーのありがた迷惑　政策現場を歩く

赤旗　　カジノ法やめさせる　大阪弁護士会がシンポジウム

赤旗　　カジノ推進　「経済効果」の看板　無理筋の理屈

　　9.20　　毎日　　和歌山／ＩＲ構想、年度内に策定　近く業者と契約

　　9.21　　福井　　論説：どうなるカジノ法案　政権こそ重度依存症では

　　　　　　日経　　横浜市長　カジノ誘致判断先送り　衆院解散で

　　9.27　　ＮＨＫ　　ＩＲ準備費用など補正予算可決

　　　　　　毎日　　カジノ合法化反対訴え　大阪で弁護士らシンポ

　　9.29　　ＮＨＫ　　和歌山ＩＲ推進協議会設立

　　　　　　毎日　　＜ギャンブル依存症＞成人３２０万人に疑い　厚労省調査

　　　　　　産経　　ギャンブル依存症３２０万人　パチンコ・パチスロが突出

　　9.30　　読売　　ギャンブル依存症、全国で推計３２０万人

　　　　　　朝日　　ギャンブル依存疑い、推計７０万人　賭け金の平均は…

　　10.1　　赤旗　　ギャンブル依存経験３２０万人　諸外国で最悪

　　10.5　　BIZ-J　　瀕死のパチンコ業界に出玉5万円以下規制がﾄﾄﾞﾒ…ﾒｰｶｰもﾎｰﾙも売上激減か

　　　　　　日経　　米カジノ大手　大阪進出に意欲

　　10.6　　産経　　ラスベガス・サンズ専務インタビュー「大阪ＩＲで大規模投資も」

当会は財政上は専らカンパで成り立っています。

会費・カンパを下記口座までお願いします。

記

りそな銀行　北浜支店　普通０１１５７１９

口座名義：ギャンブル被害をなくす会

ギャンブル依存問題川柳⑥

　カジノはＩＲカジノとして導入論が進められているが、日本人客をカジノに入れる以上、ギャンブル依存は必ず生まれる。例えば賭金100万円が正当に働いた金であること、その金を賭けても生活に支障がないこと、カジノが社会に迷惑もかけないこと、賭客がもし勝てば税務申告もして社会に還元すること、そのカジノでの金が完全に透明化されるということが本当に可能だなどと言える者はない。

　現に弊害のないカジノは世界のどこにもない。世界の金持ちは証券・金融においてギャンブルに他ならない投機をしている。それが彼らの「カジノ」なのである。

カジノより　カシノが正しい　言葉です　（カシノは売買春の宿という意味のイタリア語）

カジノには　犯罪語る　歴史あり　　　　（モナコの貴族カジノからアジアの中国人向カジノまで）

ラスベガス　産業なくて　カジノ生む　　（ネバダ州砂漠の町を　カジノとホテルの観光都市に）

復帰した　マカオカジノは　中国客　　　（中国人の町に成金中国が金落とす）

ＩＲ　シンガポールも　中国人　　　　　（観光国家にカジノ好き　中国人客を呼ぶ）

韓国の　カジノ導入　17か所　　　　　（江原道以外は外国人のみ　元炭鉱の非常手段）

カジノにて　生まれし病　何千万人　　　（国内人客に限り、客の数％が依存症になるという）

マネロンは　カジノマネーの　どれだけか（賭金そのものからチップの換金までが資金洗浄）

ＶＩＰ客　ホテルはコンプ　サービスで　（何百万円もの預け客にはＲ･Ｆ･Ｂ（室･食･酒）無料）

カジノには　入場制限　どうします　　　（厳しいとほとんどの客入れず　事業は儲からぬ）

統合型リゾートなんて　わからんぞ　　　（ホテル、MICEにリゾートでもカジノが核心）

五輪には　カジノがほしい　アホミクス　（お台場　横やり幕も入り　西は夢　北も南も）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

**事務局だより**

〇安倍首相の7条解散は違憲手続

「国難」はアベノカジノではないか。解散強行で臨時国会でのＩＲ実施審議はない。実施法は国会提案用を作成中だが成案まで至らず。次期国会（12月？）には出てくる！？

〇依存症対策を求める世論により、パチンコ出玉規制が決まった。

しかし、三店方式は規制せず、遊技の賭博化は放置したまま。それでもパチンコ界の株は急落し、業界の前途は暗い。但し、3年間の段階施行により、この間メーカーは新台を急ぐ！？

　パチンコ業界は大型化の薄利多売のスーパー化、またはアミューズメントリゾート業化へ？

〇10月5日、米ラスベガスサンズが元サッカー選手ベッカムを連れて夢洲カジノをアピール。

カジノ制限は、客が満足しないと注文も付けた。